

お客様とともに

お客様満足度向上の取り組み

◆ 品質基本方針

KYBでは「良い品質はわが社のいのち」の考えのもと、グループ内での品質情報共有化・情報伝達迅速化を積極的に進めるなど、品質向上のための諸活動により、お客様・社会にご満足いただける品質のモノづくりやサービスをご提供すべく努力しています。

◆ 品質保証体制

「製品品質」と「サービスの質」とともに、「仕事のプロセスの質」を重要視したISO9001規格に準拠した品質保証体制を構築し運用しています。また、日々その質の向上に努めています。

製品を生産する工法や工程の開発を含め、開発設計段階での品質は製品の市場品質を決定づけます。さらに、生産現場での作業手順など決めごとの完成度と運用の充実が、工程内不良を始めとしたモノづくりでの品質ロス削減につながります。

KYBでは「三段階評価」と呼ぶ製品・技術・工法などの開発・量産手法を運用し、製品の企画段階から量産出荷後の不具合改善や変更管理まで含めた製品ライフサイクル全体で高品質化を図る努力をしています。また、生産拠点では拠点長・工場長のリーダーシップのもとで品質向上諸施策が展開され、三段階評価の的確な運用を進めています。

三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 DR0評価会	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 DR1評価会	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立上がり品質
量産開発・生産準備 DR2評価会	応用性の証明・シリーズ化 (立上がり品質の実証・評価)	量産品質

品質安全宣言
本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実に作り込んでいることを明らかにする

量産



KYBの目指す姿：品質未然防止のサイクル



◆ 品質改新キックオフ

お客様の立場に立ったモノづくりを進めるため、品質改新活動を開始しました。これに先立ち、KYBグループの工場長・拠点長が参加し、グローバル総不良損失目標を必達するための、キックオフを行いました。従来の取り組み方では品質目標の必達は困難と判断しました。そこで目標未達分挽回のため全員参加を推進し、強いリーダーシップのもと集中的に改善工数を重ねることを確認しました。



小宮副社長による趣旨説明

◆ 改善専任チームの活動

海外拠点の品質不良ワースト4拠点を取り上げ、品質不良低減改善支援および拠点の自立化へ向けた改善手法の教育を実施しています。基本はお客様へ不良を流出させないことと、品質チェックの強化（検査道具立て、検査方法の指導）を行うことです。拠点自立化へ向けた教育の一環として、真因の追究と真因に対する恒久対策、効果の確認、さらには、類似工程への対策展開を生産ラインにて指導しています。



KACでの勉強会風景

また、改善スキルの評価を実施し、各拠点の改善レベル確認を実施しています。

◆ サプライヤー表彰一覧表

拠点名	名称	内容	お客様
KMS	グローバル 貢献賞	インドにおける 供給に貢献	ヤマハ発動機 株式会社
KYB	優秀 サプライヤー賞	拡販および 原価低減を評価	日立建機 株式会社
KMSB	サプライヤー 表彰	品質・納期で 満点を獲得	いすゞ自動車 株式会社
KIMZ	ベスト パフォーマンス賞	品質・納期で ノートラブル達成	ジヤトコ広州社
KYB	グローバル 開発賞	高効率ペーンポンプ 開発に貢献	ジヤトコ 株式会社
	グローバル 品質賞	直近12ヶ月 ゼロクレーム達成	
KYB 金山	サプライヤー 品質賞	品質・納期で 目標達成	ゼネラル モーターズ
KYB	サプライヤー 認定	品質・コスト・納期・ 開発で優秀性評価	三菱ふそう トラック・バス株式会社
KMSB	環境 コンベンション	CO ₂ ・産業廃棄物 排出量抑制	UMW トヨタ自動車株式会社
KMSB	優秀 サプライヤー賞	品質、納期、 価格協力に貢献	ホンリョン ヤマハ モーター株式会社

◆ 3年連続でサプライヤー表彰受賞 KST(タイ)

2013～2015年度の3年間にわたり、品質および納入スコアにおいて満点を継続したことに対し、いすゞ自動車株式会社様より名誉賞をいただきました。KSTはいすゞ自動車株式会社様にSUVやピックアップトラック向けのパワーステアリング用ポンプを納入しています。5Sや安全活動をベースに作業環境を改善し、朝一会^{*}やコンタミ低減などの部門横断的なチーム活動を通して、工程内不良の低減や作業者のスキルアップをコツコツと継続してきた結果が今回の受賞につながりました。



表彰式の模様

^{*}朝一会：始業時、生産、品質、安全などに関し、関係者が集まり、昨日までの状況を報告し、確認し合うための簡単な打合せ。

◆ お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見をうかがえる貴重なコミュニケーションの場であると考えています。今後も各国の展示会に参加していきます。

出展した展示会（一部）

展示会	主な出展
第41回 2016食肉産業展	水圧駆動式食肉加工機械用 ピストンポンプ・モータほか
人とくるまのテクノロジー展 2016横浜	ドライブレコーダ、移動体向け 通信端末ほか
InnoTrans 2016	アクチュエータ、 セミアクティブ装置など
FOOMA JAPAN2016 (2016国際食品工業展)	水圧駆動式食肉加工機械用 ピストンポンプ・モータほか
オートメカニカモスクワ	ショックアブソーバ
中国オートサロン	ショックアブソーバ
オートメカニカフランクフルト 2016	ショックアブソーバ
2016国際航空宇宙展	ホイール/ブレーキ、電動ブレーキほか
中国国際農業機械展	HTS、各種パワーステアリング、 油圧モータほか
マニラオートサロン	ショックアブソーバ
bauma China2016	小型ショベル用油圧製品など
Automechanika Shanghai 2016	ショックアブソーバ
bauma CONEXPO INDIA 2016	ミキサ車、コンクリートポンプなど
東京オートサロン2017	ショックアブソーバ
第8回 振動技術展	免震・制振用オイルダンパなど

◆ 個人株主様向け工場見学会開催

2017年3月に個人株主様向け工場見学会を相模工場にて開催致しました。株主様には、はじめに当社の紹介を行い、その後相模工場の概要をご説明致しました。次に参加株主の方が2組に分かれ、工場とKYB史料館の両方をご見学いただきました。工場見学では、実際に生産している塗装工程をご覧いただき、また史料館では当社の歴史と製品などをご紹介しました。終了後には株主様との対話を通じて貴重なご意見を多数いただきました。今後も継続して見学会を開催し当社へのご理解を深めていただくよう努めていきます。



生産工程の説明風景

お取引先様とともに

パートナーシップの構築

◆ 調達基本方針

KYBは、企業のCSRを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。KYBがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。

以下にKYBの調達の基本的な考え方をご紹介します。詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

● 調達の基本的な考え方

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | ⑥ 納期対応 |
| ② 法令の遵守 | ⑦ 自然環境の保護 |
| ③ 品質第一 | ⑧ グローバル調達体制の構築 |
| ④ 安全衛生・人権・労働 | ⑨ 危機管理 |
| ⑤ 継続的原価低減活動 | ⑩ 機密情報管理 |
| | ⑪ 腐敗防止 |

◆ 2016年度調達方針説明会

KYBとお取引先様との連携強化のため、2016年度も「KYB調達方針説明会」（品川インターシティホール：東京都港区）を開催致しました。当日は、前年度を4社上回る214社のお取引先様をお迎えし、会社方針、調達方針および品質方針を説明致しました。またQCDDにおいて効果を上げられた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲みでの交流懇親会も併せて開催しました。



◆ 紛争鉱物（コンフリクトミネラル）への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種（タンタル・

タングステン・すず・金）を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないこと等を確認することが求められています。

KYBグループ企業は、CSRの視点や米国金融規制改革法（ドット・フランク法）の趣旨に基づいて会社としてのガイドラインを作成しており、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

◆ BCP（事業継続計画）活動状況調査について

今後、発生が懸念されている三連動地震（東海・東南海・南海）に備え、調達方針説明会においてBCP対応に関する説明をしました。また、お取引先様のBCP活動状況を把握することは重要であるとの考えから、お取引先様に対し、全7分類（1.想定リスク対策、2.身の安全確保・緊急避難、3.災害対策本部、4.安否確認、5.物的被害確認、6.帰宅指示・帰宅困難者、7.復旧対策本部）100項目のアンケート調査を実施し、自己評価をしていただきました。411社からの報告をいただき、取り組み状況の把握ができました。自社の取り組み状況を把握していただくとともに、実施できていない項目について、今後、計画的に活動していただくようお願いしました。

◆ 取引先QCサークル大会開催による改善活動活性化

お取引先様の改善活動活性化を目的として、取引先QCサークル大会を毎年1回開催しています。2016年で46回目の大会となりました。今回は、132社200名のお取引先様にお集まりいただき、応募されました33社の中から優良な改善事例の6社より改善事例発表を行いました。最優秀賞（金賞）には3年連続で碧海工機株式会社様が選ばれました。

VOICE

取引先QCサークル大会 金賞を受けて ～碧海工機株式会社様～

今回の発表サークルは、鑄造職場の安定した生産を目指し生産性向上のテーマに取り組みました。よかった点は、現場からの改善要望に応えるために、忙しい中でもメンバー全員が協力して現状を分析、改善案を出し合えたことです。効果の確認では、手作業時間を大幅に短縮したことにより残業ゼロを達成、また作業者の安全を確保することも同時にできたことで達成感が得られました。メンバーは、一度は無理と思ったことも皆で知恵を出し合えば解決できるということが体験でき、日々の改善意欲が高まりました。今後も金賞を励みに職場全員がスピーディーで活気ある活動を行い、お客様満足度をより向上していきます。



左:岡田 晋様/右:青山 怜平様

地域社会とともに

社会支援活動

◆ 地元の小学校を支援 KMSI(インド)

KMSIと近隣企業各社が共同で地元小学校への支援を行いました。

蛍光灯や壁掛け時計、運動用具等の実用品をプレゼントするとともに、記念植樹や医療診断のサポートを行いました。子供たちからはこの日のために練習してきた歌や踊りを披露してもらい、小学校から感謝の盾をいただきました。地元の子供たちが学校で平和に学べるよう貢献することは、企業にとって大切な社会的責任です。今後も地域社会への貢献を続けていきます。



式典の様子



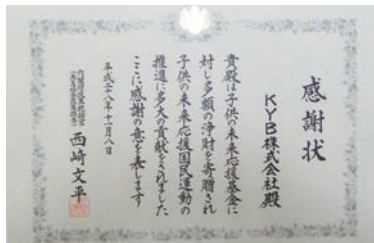
感謝の踊り



医療診断

◆ 明るい未来のために

KYBは社会貢献活動の一環として、毎年さまざまな団体の活動に協力しています。2016年度は「日本ユニセフ協会」や「経団連自然保護協議会」、「子供の未来応援基金」などへの寄付を実施しました。また、日本国内の被災地支援として、熊本地震復興への寄付と今回で2度目となる東日本大震災の復興支援の即売会を行いました。今後も明るい未来のために支援の輪を広げていけるよう、活動していきます。



内閣府からの感謝状



東日本大震災の復興支援即売会の様子

◆ 近隣の総合医療機関との合同総合防災訓練実施

岐阜南工場では、近隣にある独立行政法人 地域医療機能推進機構 可児とうのう病院様と、『合同総合防災訓練』を、毎年実施しています。この訓練は、大規模地震発生を想定し、職員および地域住民、企業が連携して、緊急時の対応を行うことを目的として可児とうのう病院様が実施しています。

2016年も、岐阜南工場本部消防隊が参加し、被災状況報告訓練等の見学、イーバックチェア（階段けが人搬送避難車）による避難訓練、岐阜南工場本部消防隊による放水訓練を実施し、防災意識の向上を図り、大規模地震発生時の連携体制を確認しました。



イーバックチェア
(階段けが人搬送避難車)による避難訓練



放水訓練

◆ 踏切事故防止キャンペーン

岐阜南工場は、名古屋鉄道広見線の可児川駅に隣接し、正門前に踏切があります。従業員の多くは、この踏切を渡り通勤しています。また、この踏切は、地元の可児市立土田小学校児童の通学路にもなっています。

小学校の入学式・始業式のある4月7日、岐阜南工場の早朝あいさつ運動として、名古屋鉄道株式会社様と可児警察署様にご協力いただき、「踏切事故をなくそう」を掲げ、「踏切事故防止キャンペーン」を実施しました。KYB従業員のみならず、児童、近隣住民の方々の安全確保に貢献しています。



名古屋鉄道株式会社社員様と
可児警察署員様による啓蒙



登校する児童の、踏切横断時の
注意啓蒙とあいさつ運動

社会支援活動

◆◆ 相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害の未然防止と豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて環境の変化を監視しています。当社は会員として自然保護活動に参加しています。2016年度は「河川生物調査」として市内の河川状況や生物種などの調査に参加しました。また「絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会」に参加し、河原の維持に貢献しています。



河川生物調査



絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会

◆◆ 産業フェア in 可児2016に出展

2016年10月に、「産業フェア in 可児2016」が開催されました。このフェアは、可児商工会議所会員企業による総合展示会で、地域の活性化に寄与することを目的としています。10回目の今回は過去最高の17,220名の人出で賑わいました。当社は、自動車・二輪車・油圧ショベル等に使用されている製品を展示しました。可児市内に立地する企業として、今後も地域の方々との交流を大切にしていきたいと考えています。



ブースの様子I



ブースの様子II



ブースの様子III

◆◆ 世界環境デーで苗木配り KCPL(インド)

毎年6月5日の世界環境デーに、KCPLは独自にPlant-athonを開催しています。このイベントを通して、私たちは環境と自然を守る必要性についての意識を高めています。この日 KCPLでは、バドグラ市の主要な場所に苗木の配布場所を設置し、市民に無料で配布しました。併せて苗木の育て方に関する情報も提供しています。さらには植林活動も行っており、2016年にはニーム、鳳凰木など10,000本以上の苗木を配りました。

◆◆ リサイクル堆肥の花壇等への活用

岐阜南工場と岐阜東工場の食堂から排出される残飯は、生ごみ処理機により減容され、その残渣は工場内で刈られた草などと混ぜられ、良質な堆肥として、岐阜東工場内でリサイクルされています。

この「リサイクル堆肥」は、例えば、岐阜東工場の東側市道沿いの200mにも及ぶ花壇に活用され、きれいな花を咲かせています。

また、「リサイクル堆肥」を活用することで、化学肥料の使用抑制と一般廃棄物排出量年間約4トン削減を実現しています。

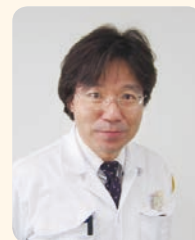


工場前の花壇

VOICE

リサイクル堆肥で育った柿

「リサイクル堆肥」のもう一つの活用例をご紹介します。岐阜県発祥のとても美味しい富有柿をご存知でしょうか？岐阜東工場の緑地帯では、「リサイクル堆肥」を活用し、富有柿を育てています。「桃栗三年 柿八年」という諺に従わず、工場竣工時に苗を植えてから4年目、枝もたわわに富有柿が実りました。お店に並べても見劣りしないほどの大きさ・色艶で、甘みも抜群です。KYBへご来訪いただいたお客様や近隣の方へ美味しい富有柿をお配りできる日を楽しみにしています。



総務課(岐阜東工場駐在)
酒井 美武

◆◆ パラアルペンスキーナショナルチームを 継続支援

KYBグループは、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟パラアルペンスキーチームのスポンサーおよびサプライヤーとして、日本チームのチェアスキー用ショックアブソーバの製品開発と技術サポートを行っています。2016年12月にスイスで開催されたワールドカップ第6戦で、KYB所属の鈴木猛史選手が優勝し、他の選手たちも好成績を残しています。KYBグループは、2018年の平昌パラリンピックでの金メダル獲得に向けて、選手と一体となり、製品の改良に努めます。また、今後も社会貢献の一環として、スポーツ振興に寄与していきます。



競技中の鈴木選手



ワールドカップ第6戦で優勝

◆◆ メキシコサッカー協賛

KYBはメキシコサッカー1部リーグ所属の「Club Leon」とスポンサー契約を締結しました。リーグ前半戦は苦戦したものの、後半戦では負けなしの快進撃を繰り広げました。決勝トーナメントへ進出し、ベスト4に入ることができました。また、リーグ途中ではKYB主催のPRイベントも開催し、メキシコ国内でのKYBの認知度向上につなげることができました。今後も地元レオンで活躍する「Club Leon」を応援していきます。



記者会見の様子



開幕戦の様子

◆◆ KYB陸上部によるランニング教室

可児市立広見小学校の5年生に、今年で13年目となるランニング教室を行い、たくさんの児童の皆さんに参加してもらいました。

まず、部員がランニングの見本を示し、頭、視線の位置、腕の振り方、呼吸など、ランニングの基本を指導しました。これにより、以前より楽に速く走ることができるようになり、ランニングの楽しさを実感してもらいました。また、小学校の先生方にも好評でした。

私たち部員も、指導する貴重な体験ができ、やり甲斐を感じています。



坂道の走り方練習



ランニングの基礎練習

◆◆ 献血サポーターへの参加

熊谷工場は、「献血サポーター」*に登録しており、毎年2回工場内で献血を実施しています。献血当日は、献血協力が積極的に会場に集まり賑わっています。血液センターの方に話をうかがうと、年々協力が減少傾向にある中、熊谷工場では毎回希望血液量に達しています。献血に協力している従業員からは「人助けに少しでも貢献したい」「人のために自分にできることをしたい」という声が多く聞かれます。また、2016年度は献血活動継続30年で日本赤十字社より感謝状をいただきました。今後も輸血を必要としている方のために献血に協力して少しでも力になれるよう活動していきます。

*献血サポーター：
医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力している企業・団体のことをいいます。



いただいた感謝状

従業員とともに

人財の活用と職場環境づくり

◆ 基本的な考え方

多様な人財を活かしてグループ力の最大化を図るため、「グローバル人財育成・グローバルプラットフォームの構築・多様性（ダイバーシティ）の推進」について重点的に取り組んでいます。

具体的には「プロフェッショナル人財の育成・グループ全体での価値観の共有・モノづくり人財の育成強化・ワークライフバランスの推進・こころと体の健康管理」などのテーマ検討を進め、働きやすい職場環境づくりを進めています。

◆ 救命講習会の開催

けが人、急病者発生時には、その場に居合わせた人が速やかに応急手当を行えば、救命率は向上します。岐阜北、南、東の各工場では「いざ」というときにひとりでも多くの命が救えるように「救命講習会」を開催しています。訓練用人形やAEDトレーナーを用いて、胸部圧迫、心肺蘇生法やAEDを実際を使用した訓練を行っています。また各工場の救急時の対応ルールや救急車の誘導方法、AED設置場所なども併せて確認しています。現在、岐阜地区に計23台のAEDが設置してあり、必要時には誰もが使用できます。

今後も多くの方が自信を持って心肺蘇生やAEDの使用ができるように講習会を継続していきます。



救命救急講習（南工場）

◆ 住みごっこ一番・可児に向けた企業との連携協定

可児市は、「働き方の見直し」や「ワークライフバランスの実現」に取り組む企業を登録し、模範となる企業と協定を結び、市内外に広くPRすることで市民と企業と街とともに発展させる「可児わくわくWorkプロジェクト」に取り組んでいます。

当社は、ワークライフバランスの実現に積極的に取り組んでいる企業として、可児市との間で「住みごっこ一番・可児に向けた企業との連携協定」を締結しました。



協定式・
岐阜北工場長

人財育成と技術力向上

◆ グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の講義」「体感実習」「社内外の見学」を柱に半月または1カ月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその改善案を実施してもらいます。

2016年度は計測と材料検査コース、センタレス研削コースおよびKPSコースを実施し、11カ国14拠点から41名が受講しました。

今後も本研修を継続実施し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



研削コースの工場見学の様子



オフの日の岐阜城見学

◆ KYBグローバル生産・品質会議

2016年度のグローバル生産・品質会議は、11月9日～11日の計3日間で開催されました。海外の19拠点から42名が参加し、事例発表と熱心な質疑応答が行われました。

初日のKYBグローバル改善発表会では、13拠点から14テーマの生産・品質に関わる改善テーマが発表され、KSTが「ゴールドファインディング活動（コンタミ低減活動）」の発表により金賞を受賞しました。

各生産拠点における『安全・環境・品質・生産』に関する情報と課題の共有化を図り、それぞれの機能レベルを向上させ、今後の発展に寄与していきます。



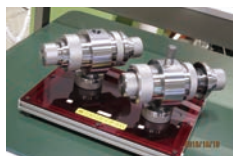
参加者集合写真（於 岐阜北工場）

◆◆ QCサークル活動（小集団改善活動） 優良企業・事業所表彰

岐阜地区は、2016年度QCサークル活動(小集団改善活動)優良企業・事業所の表彰をいただきました。この賞は、長年にわたり地域の活性化に大きく貢献している企業・事業所へ授与されています。今回、全国9支部11企業のひとつとして選出されました。当日は岐阜地区渉外担当役員である岐阜北工場の畠山工場長が代表となり、日科技連より表彰状と盾を授与されました。

◆◆ 技能五輪全国大会へ出場

技能五輪は、23歳までの若者を対象に技能日本一を競う競技大会です。54回目の今大会は41職種、1,318名の選手が出場しました。



課題のサンプル品

KYBが出場した旋盤職種は、競技で一番人気が高いため2次予選が設けられました。加工する5つの部品の公差はすべて±0.02mmにするという、大変厳しい精度が求められます。



競技中の石原選手

人育成センターでは、若手技能者育成と自社の加工レベルアップのために毎年2名がエントリーしており、2016年度も加木屋良真と石原公貴が本戦へ出場しました。



競技中の加木屋選手

また、2017年度も継続して出場できるよう現在も2名が訓練に励んでいます。

◆◆ スラッジ定期清掃作業の廃止

長い間課題となっていた研削工程のスラッジ清掃作業を改善しました。

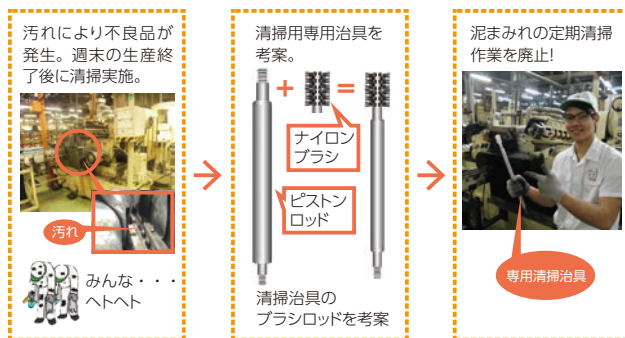
ショックアブソーバのピストンロッドは、摺動面（外径）を砥石で鏡面仕上げ加工を行います。加工で発生したスラッジが受け治具に堆積し、加工キズとなり不良品が発生する為、週末生産終了後、泥まみれになってのスラッジ清掃作業が待っていました。時間も体力も必要で大変な作業でした。

試行錯誤を繰り返した結果、専用清掃治具（ブラシ取付品）を考案する事ができました。加工中に堆積したスラッジを除去できる優れものです。これでスラッジの定期清掃作業を廃止することができました。

『最後まで諦めない』をスローガンに職場全員で知恵を出し合い解決できた改善事例です。

岐阜北工場サスペンション製造部
岩井 研弥

スラッジ定期清掃作業の廃止



VOICE

出場者の感想

私は、技能五輪を通して仕事に自分のやり方を持つということ学びました。これは、人の優劣ではなく、自分にできる最大限の仕事をするということです。これからは自分の個性を生かした仕事で会社に貢献します。



人育成センター
かぎや
加木屋 良真

今回初めて技能五輪に挑戦し、二次予選を通過して全国大会に出場できたことは次回につながるとも貴重な経験になりました。本選の結果はあまり満足のいく結果ではなかったので、2017年度に向けて練習を積み来年の大会では入賞できるようにがんばります。



人育成センター
石原 公貴

従業員コミュニケーション

◆ 第15回 KYB 全社スポーツ・文化交流大会

15回目となるスポーツ・文化交流大会が、KSMの工場がある三重県で開催されました。競技数全11種目、合計992名が一堂に会し、すべての競技において白熱した展開となり大変盛り上がりしました。海外勢が主役となったフットサルは、ベトナムを抑えてスペインが優勝。散策は、タカコの工場がある滋賀県甲賀市で行われ、信楽焼体験など地元ならではの競技も楽しく行われました。スポーツ・文化の競技を通じて、KYBグループの従業員が交流を深め仲間との絆を強めることができる、年に一度開催される貴重なイベントとなっています。



競技のようす(フットサル試合後)

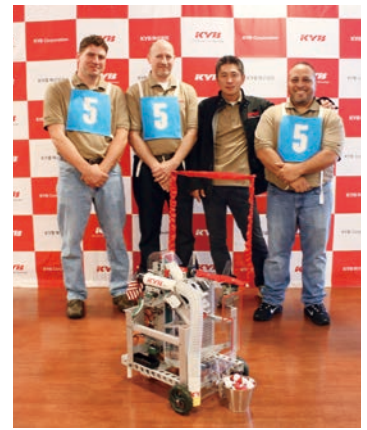


開会式のようす(鏡開き)

- 開催日：2016年9月24日(土)～9月25日(日)
- 開催地：三重県・滋賀県(KSM、タカコ)
- 競技：ソフトボール、ビーチバレーボール、フットサル、ボウリング、硬式テニス、海釣り、卓球、ゴルフ、ドッジボール、散策、百人一首

◆ 第9回 KYBロボットコンテスト開催

2016年11月12日に第9回「KYBロボットコンテスト」が、岐阜北工場にて開催されました。今回の競技課題は玉入れで、ロボットはスタート後にボールの入ったバケツを取り、相手コートにボールを入れて、その合計点を競います。2016年は国内(グループ会社含む)17チーム、海外7チームの計24チームが参加し、観客を含めて参加者が約600名となり、今年も大盛況となりました。優勝はKAC(アメリカ)で3年ぶりに王座を奪還しました。また、上位3チーム、ならびに社長特別賞、技術賞、アイデア賞、最多得点賞のすべてを海外チームが独占しました。2017年は相模工場にて開催予定です。



優勝チームのKACのメンバー



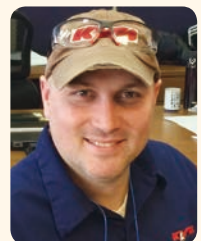
競技参加者とチームメンバー

VOICE

ロボットコンテストで3年ぶりに王座奪還

我々ロボコンチームはシンプルなコンセプトにより勝利への戦略を立て自作のコースで練習しました。インドネシアチームとの決勝戦は最後まで白熱した戦いでした。2016年は4チームが同時に競う形式となっており、観客もプレーヤーもとても盛り上がりしました。我々は5年間で3度も優勝できました。2017年度のコンテストでは是非ともタイトルの防衛をしたいと思います。

KAC チームリーダー
Jon Burris
(ジョン パリス)



安全で働きやすい職場づくり

労働安全衛生

◆◆ 労働災害ゼロを目指して

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一体となって活動を行ってきました。安全担当役員を委員長とした全社の「環境・安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となって具体的な活動を行っています。2016年度は前年度国内で実施してきた諸対策「リスクアセスメント」「止める・呼ぶ・待つ」「繰り返し安全教育」「安全の門」などを海外生産拠点工場へも展開しました。その結果2016年度においては2015年度と比較し、労災件数を約12%低減できました。まだまだ目標とするゼロには至っていません。今後も労災ゼロに向け継続して活動を進めていきます。



ベトナム工場(KMV)に設置された安全の門 KMVにおける繰り返し安全教育

◆◆ 繰り返し安全教育の実施

これまで安全教育への取り組みは「雇入れ時の安全教育」「安全体感教育」などを各工場で実施してきました。しかしこれらは各工場が独自で実施してきたため、内容や方法に一貫性がないという問題がありました。そこで全社の安全実務者を中心に安全の基本的な考え方やリスクアセスメントなどの管理手法等を集約して「KYB安全の基本」テキストを作成しました。このテキストをグループ全体で採用することで、同じレベルで且つ計画的な教育を開始することが出来ました。受講対象者は、労働災害が多く発生している経験年数の従業員を対象としています。今後はさらに受講対象者の範囲を拡大して実施していきます。



「KYB安全の基本」テキスト表紙



講習会風景

◆◆ アジア安全衛生SAKURAプロジェクトに参加 KST(タイ)

2016年11月7日～11日の5日間、中央労働災害防止協会主催のアジア安全衛生SAKURAプロジェクトに参加しました。KYT、リスクアセスメント、OSHMSについて専門家の方々に非常にわかりやすく教えていただき、ワークショップや現場見学も盛り込まれており、講義内容を深く理解することができました。また、2月15日には専門家の方に工場を見ていただき、具体的なアドバイスをいただきました。今回の研修を通して、今まで取り組んできた活動のよい点と改善が必要な点を明らかにすることができましたので、活動のレベルアップを図るとともに、活動を工場全体に広げ、よりよい社会貢献へつなげていきたいと思っております。



各企業からの参加者 (KST/バットさんは2列目中央)

受講風景

◆◆ 労働災害件数・度数率・強度率

